

〔徒然草〕<sup>上</sup>世の人の心まどはす事、色欲にはまかす、略○中久米の仙人の物あらふ女のはぎのまろきを見て、通をうしなひけんは、誠に手あしはだへなどの、きよらに肥あぶらつきたらんは、外の色ならねばさもあらんかし、

三里

〔書言字考節用集〕<sup>五</sup>肢體三里<sup>サリ</sup>灸<sup>灸</sup>

〔和漢三才圖會〕<sup>十一</sup>絡足陽明胃經<sup>右</sup>九十穴

三里 在膝眼下三寸、胫骨外廉、大筋内宛宛中、坐而堅膝、低跗取之、極重按之、則跗上動脈止矣、小兒

忌灸之、反生疾、三十歲外方可灸、治諸病、能下氣、

〔俗說正誤〕夜光珠<sup>下</sup>三里は皿の口といふ説

俚言に、三里は皿の口とて、灸穴ひろく、灸所すこし違ひてもくるしからずといふこと、據なき誤なり、又膏肓は、血の口といふ人もあり、何れの灸穴にても、廣きといふはなきことなり、すべて經絡灸穴はよく考がへ正して、鍼にても灸にてもすべし、若灸穴の差ひあれば、徒に良肉を破るのみにあらず、禁鍼禁灸の穴にあれば、却て害あり、又阿是の穴といふは、秘傳ある事也、されば始めて下す灸點を、委く知れる人に頼むべきなり、禮記の經解篇に、易に曰はく、君子は始を慎む、差ふこと若毫釐なれば、繆るに千里を以てすと、は、此之謂也といへり、

臙

〔新撰字鏡〕<sup>肉</sup>臙<sup>國音曲脚中</sup>也、字豆阿志、

〔倭名類聚抄〕<sup>三</sup>手足臙<sup>大素經注云、臙名與保呂、曲脚中也、</sup>

〔箋注倭名類聚抄〕<sup>二</sup>手足、榮花物語月宴卷、日蔭鬘卷、空穗物語樓上下卷、並言與保呂、與此同、仁德紀

臙訓、與保呂久保、新撰字鏡、臙訓、與保呂乃須知、臙訓、宇豆阿之、與保呂須知、見宇治拾遺物語、或曰、

與保呂弱折之轉、今俗呼比加々美、按又訓丁爲與保呂者、以用脚力有是名、猶今俗呼丁爲入足也、

略○中 黃帝內經太素三十卷、唐楊上善撰、所引人合篇注文、是書宋至明清、至者錄著、知西土早逸亡、